

令和4年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

商 業

受験番号		氏名	
------	--	----	--

注 意 事 項

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから7ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

- 1 「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）では、教科「商業」科目「ビジネス基礎」の目標及び内容について、次のように示されている。後の(1)～(3)の問いに答えなさい。

1 目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う（ア）として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する（イ）を身に付けるようにする。
- (2) ビジネスに関する（ウ）を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む（エ）を養う。

2 内容

1に示す資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

- (1) 商業の学習とビジネス
 - ア 商業を学ぶ重要性と学び方
 - イ ビジネスの役割
 - ウ ビジネスの動向・課題
- (2) ビジネスに対する心構え
 - ア 信頼関係の構築
 - イ コミュニケーションの基礎
 - ウ 情報の入手と活用
- (3) 経済と流通
 - ア 経済の基本概念
 - イ 流通の役割
 - ウ 流通を支える活動
- (4) 取引とビジネス計算
 - ア 売買取引と代金決済
 - イ ビジネス計算の方法
- (5) 企業活動
 - ア 企業の形態と組織
 - イ マーケティングの重要性と流れ

（中略）
- (6) 身近な地域のビジネス
 - ア 身近な地域の課題
 - イ 身近な地域のビジネスの動向

- (1) （ア）～（エ）に当てはまる語句を答えよ。
- (2) 科目「ビジネス基礎」では、指導項目のうち、「(1) 商業の学習とビジネス」及び「(2) ビジネスに対する心構え」について、他の指導項目を指導する前に扱うこととしている。その理由をそれぞれ答えよ。
- (3) 指導項目「(6) 身近な地域のビジネス イ 身近な地域のビジネスの動向」では、どのような学習活動を取り入れることが考えられるか、具体的に答えよ。

- 2 「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）では、第3章第3節第3款「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」について、次のように示されている。後の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、商業の見方・考え方を働かせ、企業活動に関する事象を捉え、専門的な知識、技術などを基にビジネスに対する理解を深めるとともに、ビジネスの振興策などを考案して地域や産業界等に提案し、意見や助言を踏まえて改善を図るなどの実践的・体験的な学習活動の充実を図ること。
- (2) 商業に関する各学科においては、「ビジネス基礎」及び「課題研究」を原則として全ての生徒に履修させること。
- (以下略)

- (1) 「主体的な学び」について、教科「商業」では、どのような視点から授業改善を図ることが考えられるか、具体的に答えよ。
- (2) 科目の性格やねらいなどからみて、商業に関する各学科においては、科目「ビジネス基礎」及び「課題研究」は、それぞれどの年次で履修させることが望ましいか答えよ。

- 3 次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (1) 5冊につき¥2,000のコピー用紙を200冊仕入れたとき、代価はいくらか答えよ。
- (2) 1月25日から9月10日までは何日間か答えよ。(うるう年、片落とし)
- (3) ある金額の20%引きが¥360,000であるとき、ある金額を答えよ。
- (4) ¥20,500は、何ポンド何ペンスか答えよ。ただし、£1=¥160.50とする。
(ペンス未満四捨五入)

- 4 次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (1) プロモーションミックスとはどのようなものか説明せよ。
- (2) チェーン組織のうち、画期的な商品、販売方法や経営全般に関するノウハウを有する企業が本部となり、加盟店に自社の商号・商標などを使用させて各加盟店が同一的な事業運営を行うものを何というか答えよ。
- (3) 債務不履行のうち、債務者が履行しようと思えば履行できるにもかかわらず、債務の履行期がきても、履行しないことを何というか答えよ。
- (4) 製造物の欠陥によって、人の生命、身体または財産に被害が生じた場合には、その製造物を製造、加工または輸入した業者は、損害賠償責任を負う。このことを何というか答えよ。

5 次の(1)～(6)の文中の(ア)～(コ)に当てはまる語句等を答えなさい。

(1) 簿記は、記帳方法の違いにより、企業の経営活動の全てを二面的に把握し、記録・計算・整理する(ア)簿記と、とくに定まった記帳方法はなく、現金の収入と支出を中心に記録・計算・整理する(イ)簿記に分けられる。

(2) 総合原価計算は、製品の種類や生産形態の違いにより、次の3つに分けられる。

(ウ) 総合原価計算	同じ種類の製品を連続して製造する場合に用いられる。
(エ) 総合原価計算	同種類であるが、等級に分けられる等級製品を連続して製造する場合に用いられる。
(オ) 総合原価計算	異なる種類の製品を組に分け、それぞれの組ごとに、同じ種類の製品を連続して製造する場合に用いられる。

(3) 1 MB^{メガバイト}とは、約(カ) B^{バイト}のことである。また、1 ns^{ナノセカンド}とは、(キ)分の1秒のことである。

(4) メールなどで有名な企業を装ったウェブサイトに利用者を誘導し、そこで、利用者のクレジットカード番号などを不正に取得しようとすることを(ク)詐欺という。

(5) 表計算ソフトウェアでは、用意された関数を利用することにより、複雑な計算式を入力しなくても、いろいろな計算を簡単に行うことができる。例えば、指定したセル範囲の合計を求めるにはSUM関数、指定したセル範囲の中で、特定のセル番地の値が昇順または降順で何番目なのかという順位を求めるには(ケ)関数を使用する。

(6) 通信文書の本文は、「件名」「頭語・前文」「主文」「末文」「結語」「別記」から構成されており、「敬具」はこのうちの(コ)に当たる。

6 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の取引から、総勘定元帳の買掛金勘定及び買掛金元帳の(ア)～(エ)に当てはまる勘定科目や金額を答えよ。

取引

11月5日 A商店から商品¥210,000 B商店から商品¥150,000を仕入れ、代金はそれぞれ掛けとした。

11月6日 B商店から仕入れた商品のうち¥10,000は、破損していたため返品した。

11月25日 買掛金支払いのため、A商店に¥170,000、B商店に¥90,000をそれぞれ現金で支払った。

総勘定元帳

買掛金

12

11/6 仕入 (ア)	11/5 仕入 (※※)
25 (イ) (※※)	

買掛金元帳

A商店

1

令和○年	摘要	借方	貸方	借または貸	残高
11/5	仕入れ		210,000	貸	210,000
25	支払い	(※※)		貸	(ウ)

B商店

2

令和○年	摘要	借方	貸方	借または貸	残高
11/5	仕入れ		150,000	貸	150,000
6	返品	10,000		貸	(※※)
25	支払い	(※※)		貸	(エ)

(注)※※印は、金額の表記を省略している。

(2) C商店は、D商店に現金¥130,000を貸し付け、同店振り出しの約束手形¥130,000を受け取った。この取引について、C商店の仕訳をせよ。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当なものを使用すること。

【勘定科目】

現金	受取手形	手形貸付金	支払手形	手形借入金
----	------	-------	------	-------

(3) E商店は、委託販売のため、F商店に商品¥250,000(原価)を発送した。なお、発送に要した運賃¥5,000は現金で支払った。この取引について、次のように積送品勘定を用いて仕訳をする理由を答えよ。

【仕訳】

借方		貸方	
積送品	255,000	仕入	250,000
		現金	5,000

7 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) CVP分析(損益分岐分析)とはどのようなものか、「売上高」「原価」「利益」という用語を使用して説明せよ。

(2) A製作所では、直接原価計算を行い利益計画を立てている。当月における次の資料から、後の①～③の金額や数量を答えよ。

【資料】

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 販売単価¥200 販売数量2,000個・ 製品1個あたりの変動費¥80・ 固定費¥45,000 |
|---|

① 販売数量2,000個のときの貢献利益額を答えよ。

② 損益分岐点における販売数量を答えよ。

③ 目標営業利益¥300,000を達成するための売上高を答えよ。

(3) 工程別総合原価計算を採用しているB製作所では、当月中の第1工程完成品は¥450,000であり、全て一旦倉庫に保管している。この取引の仕訳をせよ。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当なものを使用すること。

【勘定科目】

第1工程製造	第2工程製造	第1工程半製品	第2工程半製品
--------	--------	---------	---------

8 A商事株式会社の商品に関する次の資料から、後の(1)～(4)の問いに答えなさい。

【資料】

元帳勘定残高(一部)

繰越商品	¥390,000	売上	¥6,100,000	仕入	¥4,900,000
------	----------	----	------------	----	------------

決算整理事項

期末商品棚卸高

帳簿棚卸数量 2,000個 原価 @¥400

実地棚卸数量 1,900個 正味売却価額 @¥380

なお、(a)商品評価損・棚卸減耗損は売上原価の内訳項目とする。

(1) 実地棚卸数量と帳簿棚卸数量が異なる原因として、どのようなことが考えられるか答えよ。

(2) 正味売却価額と原価が異なる原因として、どのようなことが考えられるか答えよ。

(3) A商事株式会社の棚卸減耗損(¥40,000)、商品評価損(¥38,000)、商品の次期繰越高(¥722,000)の求め方について、図と式を用いて説明するための板書例を作成せよ。

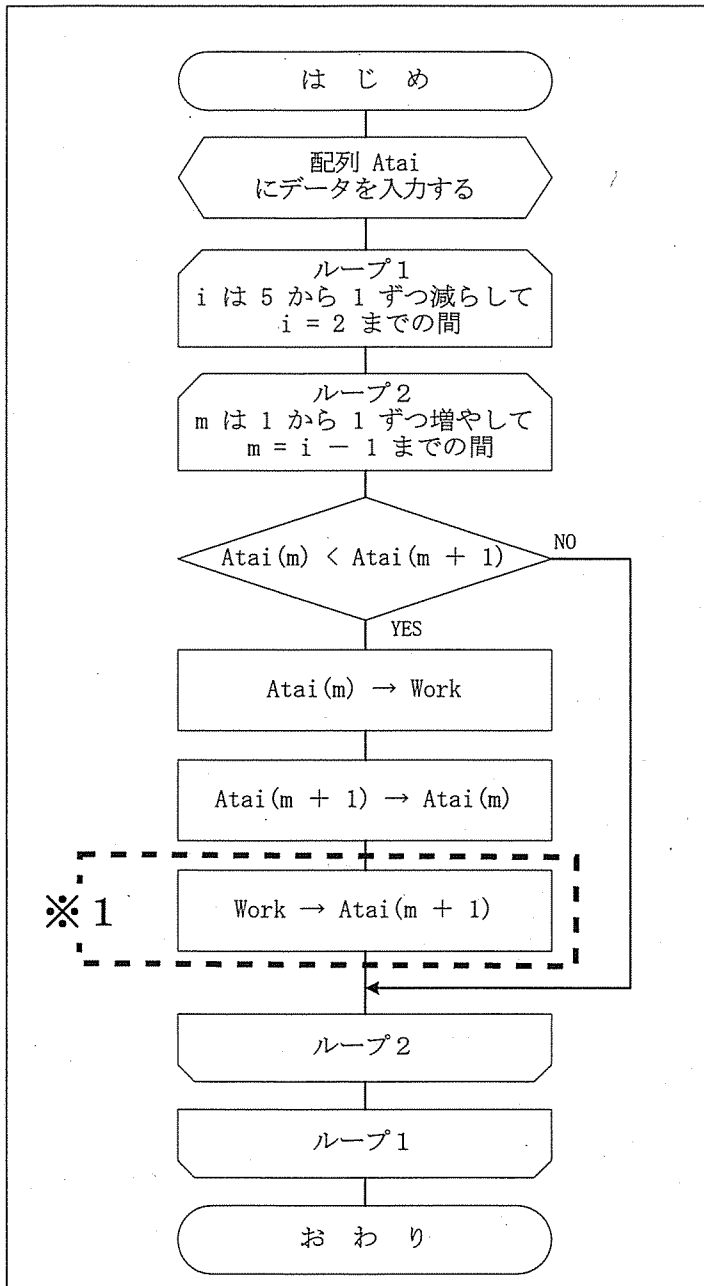
(4) 下線部(a)について、売上原価の内訳項目とする商品評価損及び棚卸減耗損は、決算において「売掛金」「貸倒引当金」「売上」「仕入」「減価償却費」のいずれの勘定に振り替えるのが適切か答えよ。

9 図1の配列Ataiには次の数値データが入力される。図1の配列Ataiを用いて図2の処理を行うとき、後の(1)～(3)の問いに答えなさい。

図1

配列Atai				
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
35	46	21	52	37

図2



(1) 図2の ※1 の処理を3回終えたときの Atai(5) の値を答えよ。

(2) 全ての処理が終了したときの Atai(1) の値を答えよ。

(3) 図2はどのような処理を行っているか説明せよ。

10 表計算ソフトウェアを利用して、図1を基に図2～図4を作成する。後の(1)～(6)の問いに答えなさい。

図1

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1																	
2	過去4週間のA商品の売上データ																
3																	
4		月	火	水	木	金	土	日	最大	最小	平均						
5	第1週	26	38	39	20	47	53	51	53	20	40						
6	第2週	32	49	14	30	55	41	48	55	14	39						
7	第3週	24	57	45	41	33	68	71	71	24	49						
8	第4週	34	42	28	46	42	57	66	66	28	45						
9																	
10	表①																
11	区間(売上数)	0-19	20-39	40-59	60-79												
12	度数(度数)	1	10	14	3												
13																	
14	表②																
15	区間(売上数)	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79								
16	度数(度数)	0	1	4	6	9	5	2	1								
17																	
18	表③																
19	区間(売上数)	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79
20	度数(度数)	0	0	1	0	2	2	4	2	4	5	2	3	0	2	1	0

図2 (表①より作成)

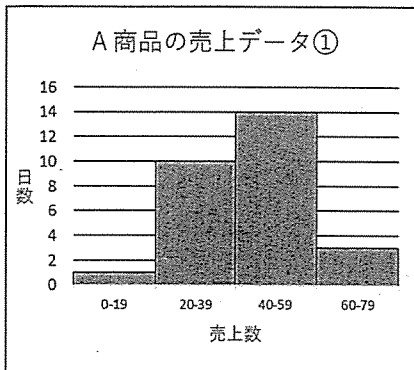


図3 (表②より作成)

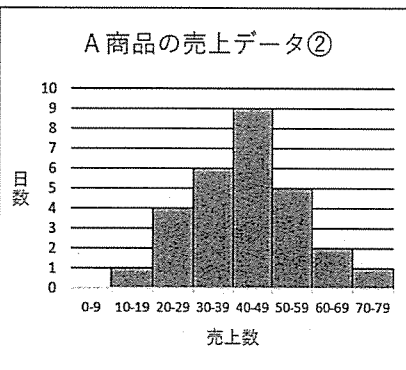
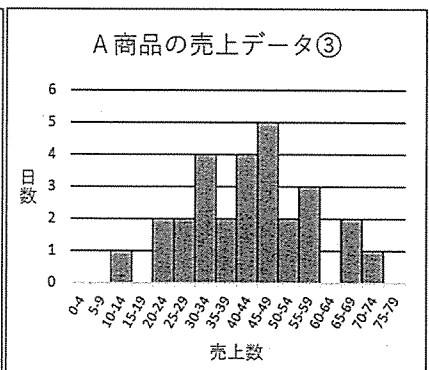


図4 (表③より作成)



- (1) 図1の「最大」は、週ごとの「売上数」の最大値を求める。セルI5に設定する式を答えよ。
- (2) 図1の「最小」は、週ごとの「売上数」の最小値を求める。セルJ5に設定する式を答えよ。
- (3) 図1の「平均」は、週ごとの「売上数」の平均値を求める。セルK5に設定する式を答えよ。ただし、整数未満は切り上げる。
- (4) 図1の「表①」、「表②」、「表③」は、データの範囲を一定の区間(階級)に分割し、その区間に含まれるデータの個数(度数)をまとめた表である。このような表を何というか答えよ。
- (5) 図2～図4は、図1の表①～表③を基に作成している。図2～図4のようなグラフをカタカナ6文字で何というか答えよ。
- (6) 今回、A商品の売上データの傾向を表すために最も適切なグラフは、図2～図4のうちのどれか答えよ。また、その理由を説明せよ。

科目	商業 解答用紙	2 枚中の 1	受験 番号	氏 名	(4年)

1	(1)	ア	イ	ウ	エ	
		(指導項目「(1)商業の学習とビジネス」について、他の指導項目を指導する前に扱う理由)				
	(2)	(指導項目「(2)ビジネスに対する心構え」について、他の指導項目を指導する前に扱う理由)				
2	(1)	ビジネス基礎			課題研究	
	(2)					
3	(1)			(2)		
	(3)			(4)		
4	(1)					
	(2)			(3)	(4)	
5	ア	イ	ウ	エ		
	オ	カ	キ	ク		
	ケ	コ				
6	(1)	ア	イ	ウ	エ	
		借 方		貸 方		
	(2)					
	(3)					
7	(1)					
	(2)	①	②	③		
		借 方		貸 方		
	(3)					

科目	商業 解答用紙	2 枚中の 2	受験 番号	氏 名		(4年)

8	(1)					
	(2)					
	(3)					
	(4)					
9	(1)		(2)			
	(3)					
10	(1)					
	(2)					
	(3)					
	(4)		(5)			
		適切なグラフ	理由			
	(6)					

以下はあくまでも解答の一例です。

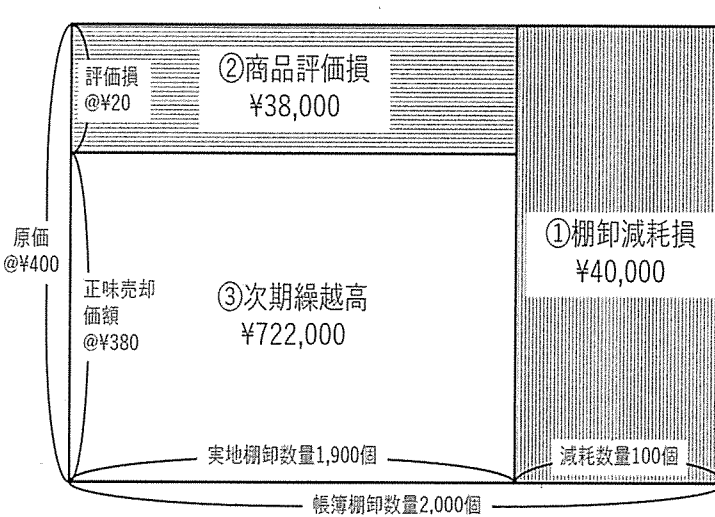
科 目	商業 解答用紙	2 枚中の 1	受 験 番 号	氏 名	
--------	---------	---------	------------------	--------	--

(4年)

1	(1)	ア	職業人 2点	イ	技術 2点	ウ	課題 2点	エ	態度 2点	
	(指導項目「(1)商業の学習とビジネス」について、他の指導項目を指導する前に扱う理由) 商業を学ぶ重要性と学び方など専門的な学習への動機付けを図るものであることから、他の指導項目を指導する前に扱うこととしている。等 3点									
	(2)	(指導項目「(2)ビジネスに対する心構え」について、他の指導項目を指導する前に扱う理由) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する学習などで身に付けた力を商業科の様々な学びの中で生かすことが、職業人として必要な資質・能力を育成する上で重要であることから、他の指導項目を指導する前に扱うこととしている。等 3点								
(3) 国内の身近な地域のビジネスの動向について扱い、ビジネスの動向を捉えて、地域の特色を生かしたビジネスの振興策を考案し、発表する学習活動を取り入れる。等 6点										
2	(1)	ビジネスに関する課題を設定し、様々な教科・科目等で身に付けた知識、技術などを生徒自らが活用し、解決策を考案する学習となっているか、ビジネスに関する理論について、実験などにより確認し妥当性を検討したりしているか、身に付けた知識、技術などを基に新たな視点でビジネスを捉えているかなどの視点から、授業改善を図ることが考えられる。等 6点								
	(2)	ビジネス基礎 2点				課題研究 2点				
3	(1)	¥80,000	4点	(2)	229日間 4点					
	(3)	¥450,000	4点	(4)	£127.73 4点					
4	(1)	広告や販売員活動に代表される販売促進の諸活動について、全体として相乗効果が最大になるように組み合わせたもの。等 6点								
	(2)	フランチャイズチェーン 4点	(3)	履行遅滞 4点	(4)	製造物責任 (PL) 4点				
5	ア	複式 2点	イ	単式 2点	ウ	単純 2点	エ	等級別 2点		
	オ	組別 2点	カ	1,000,000 2点		キ	1,000,000,000 2点		ク	フィッシング 2点
	ケ	RANK 2点	コ	結語 2点						
6	(1)	ア	10,000 2点	イ	現金 2点	ウ	40,000 2点	エ	50,000 2点	
	借 方									
	(2)	手形貸付金 130,000				現 金 130,000				
(3) 委託販売する商品を、手元にある商品と区別するため。等 6点										
7	(1)	売上高の増減により、原価と利益がどのように変化するかを計算し、分析すること。等 6点								
	(2)	①	¥240,000 2点	②	375個 2点		③	¥575,000 2点		
	(3)	借 方				貸 方				
(3) 第1工程半製品 450,000										
(3) 第1工程製造 450,000 6点										

科目	商業 解答用紙	2 枚中の 2	受験番号	氏名
----	---------	---------	------	----

(4年)

8	(1)	紛失、破損、盗難等により、数量の不足（減耗）が発生したことが考えられる。 等	4点
	(2)	品質の低下、陳腐化、市場の需要変化等により、正味売却価額が取得原価より低下したことが考えられる。 等	4点
	(3)	 <p>①棚卸減耗損 = @¥400 × 100個 = <u>¥40,000</u></p> <p>②商品評価損 = @¥20 × 1,900個 = <u>¥38,000</u></p> <p>③商品の次期繰越高 = @¥380 × 1,900個 = <u>¥722,000</u></p>	9点
	(4)	仕入	3点
9	(1)	21	6点 (2) 52 6点
	(3)	配列Ataiの値を降順に並び替えている。 等	8点
10	(1)	=MAX (B5:H5)	6点
	(2)	=MIN (B5:H5)	6点
	(3)	=ROUNDUP (AVERAGE (B5:H5), 0)	6点
	(4)	度数分布表	6点 (5) ヒ ス ト グ ラ ム 6点
	(6)	適切なグラフ	理由
	(6)	図3	<p>図3は、中央値や平均の位置が読み取れ、出現しない区間もほぼないため適切である。</p> <p>図2は、データの集中が強調され、中央値や平均の位置が読み取れなくなっているため、適切ではない。</p> <p>図4は、同じデータ数の区間が続くことや、データが出現しない区間が複数あるため、抽出データの不足が推測され、適切ではない。 等</p>